長洲町立長洲小学校　校長便り　No.８２

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年３月２４日(金)

１年間ありがとうございました

「みんなの居場所」の発行も、今年度最後を迎えました。反響を頂く度に感謝の気持ちで一杯です。読者の皆様のお話によると、最も反響が大きいコーナーは「シリーズ自分を語る」だそうですね。その中でも、病気やケガの話題に読者が多く、もっと病気ケガについて書いてくれと言われます。面白いのは分かるのですが、私もそんなに病気やケガばかりしていたら体がもちませんの、悪しからず…。でもまぁ、あと少しはありますから期待していてくださいね。

１年間を振り返ってみると、私が着任した１年前はコロナ禍の只中であり、学校運営がどのように展開できるのかまだまだ不透明でした。

この１年間にも、多くの通知文が国や県から出され、子供達の行事や学習活動に影響を与えました。そのような中で、子供達、保護者の皆様、地域の皆様、学校職員、全ての人達が「自分達に何ができるか?」を問うて、多くの行事を実施できたことも、このような状況だからこそ経験できたことなのだと噛み締めています。

コロナ禍の影響で子供達や保護者の皆様と接する場面も少なかったのですが、運動会、宿泊教室、修学旅行と、学習効果の大きい行事や実施可能な行事は、「どうすれば実施可能なのか?」を考え、しっかりと実施してきました。そのような中で、多くの保護者の皆様と接することができました。

年度末、３月４日にはＰＴＡ主催「親子でチャレンジ強歩会」が実施され、多くの保護者の皆様とお話しすることができました。

私はやって良かったと多くの行事を振り返り、来年度も何か新しいことにチャレンジしていこうと考えています。長洲小や長洲小校区を盛り上げていくために何ができるか?これからも保護者の皆様のアイデアをお寄せください。私は皆様とお話しすることが大好きです。来年度も気軽に校長室にお越しください。拝。

強歩会の感想紹介

匿名さん

私は横島から合流しました。合流した時子供達はまだまだ元気で、ペースが速かったです。しかし、班の中に下学年の子がいて、途中から涙がポロポロ。でもその子はくじけずに「大丈夫です。」しか言わないんです。諦めず黙々と歩く姿に感激しました。また、途中に合流した時には、他の班の男の子が泣いていた子に声をかけてあげて、おもむろに彼はリュックを前に持ち、「はい、おんぶしてあげる。」と言ってしゃがむではありませんか。私は「なんと男前なんだ!」と感動すると同時に、凄くカッコいいなと思いました。おんぶはされなかったけど、心がホンワカした瞬間でした。

そして、自分の娘と後半やっと一緒に歩き始め、頑張っている姿に成長を感じ、一緒にゴールすることができて、大変嬉しく思いました。私は全部歩いたわけではないので楽しかったという印象しかなく、来年はもう少し長く歩こうかなと思っています。強歩会の話を娘が幼稚園の時のママ友に話したら、「うちも歩きたい!」と言っていました。

校長先生の教え子さん達（澤田組と仰っていました。）にも大変お世話になりました。ありがとうございました。来年も引き続きサポートできればと思っています。

シリーズ「自分を語る」#８２

熊本県国際課で仕事をさせて頂くこととなり、多くのことを経験していくことになりました。最初の一週間は、ひたすら分厚いファイルを読むことと、言われた事をするだけの生活でした。（一週間とはいきませんでしたね、一ヶ月くらい続いたかな?）

先ずは、当時私が担当していた件の事業について少し紹介します。大きく分けて３つあります。①「熊本県費留学生事業」の運用、②「熊本県海外技術研修員事業」の運用、③「自治体職員協力交流事業」の運用の３点です。

①の「熊本県費留学生事業」は読んで字の如くで、熊本県が費用を負担して留学生を招き、将来熊本県との経済的文化的な戦略的交流の架け橋となる人材の育成を目指すものです。主に、熊本県人会のある海外諸国の青年、例えば父母、祖父母が移住し、その２世３世として生まれた方を留学生として招き入れ、その生活マネジメントを行う業務でした。と簡単に書いていますが、留学生受け入れ、生活のお世話、大学との打ち合わせ、帰国までの全ての業務を行うので、めまぐるしく状況が変化していき、本当に訳が分かりませんでした。

②の「熊本県海外技術研修員事業」は更にめまぐるしく動きます。それは、研修期間が留学生よりも短く、研修内容が濃密で、それに加え、研修がスムーズに行えるように日本語の研修もしなければなりません。そういう意味で大変でした。

③の「自治体職員協力交流事業（ＬＧＯＴＰ）」は、留学生や研修員と同じような業務ですが、事業の母体が「自治体国際化協会」といって、東京に本部がある事業所です。そこは総務省の管轄で、自治体職員、つまり諸外国の公務員を熊本県の公務員と交換留学のような形で研修させるものです。

簡単に３つの事業の取組を紹介しましたが、私はもともと教師ですから、一般行政の経験等ありません。ですから、国際課職員の言っている言葉の意味が分からず、更に留学生や研修員の決定は、国際電話による電話面談によって行います。面談及び候補者決定を行うのは私澤田です。おいおい…どうなってるんだよ…ってな感じです。職員の言葉も留学生や研修員の言葉も分からず、何をしているか分からない状態で１ヶ月ほどを過ごしました。

４月１０日頃でしたでしょうか、同じ「島」の職員から、「澤田さん、今週出張だよ。」と言われ、久しぶりに外に出れるなぁ、ってホッとしていましたら、要項を見ると会場は「クレア」となっていました。「あ～、嘉島のクレアね。」と話していたら、同じ島の職員が笑っています。よくよく要項を見ると「クレア（自治体国際化協会）」となっています。何と場所は東京霞ヶ関でした。教師の出張に県外はあまりありませんので驚きました。しかも、クレアで働く人たちはバリバリのキャリアで、殆どの人がバイリンガルです。しかも、最低でも３ヶ国語は話すという人ばかりです。同じ立場で参加していた人たちは、これまたバリバリの行政マンです。その中に放たれた「迷える子羊澤田」でした。しかも、この日は東京日帰り、しかも春の嵐で出発遅延、現場到着ギリギリでした。私はその帰りの飛行機の中では、すっかり落ち込んでいました。理由は自分の不甲斐なさと、教師の視野の狭さにでした。　（来年度につづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）